

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	株式会社児湯食鳥 八代事業部 新	階数	地上2F	
建設地	熊本県八代市新港町3丁目9番26	構造	S造	
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	0 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	0 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2018年1月12日	
敷地面積	19,801 m ²	作成者	株式会社 丸中設計事務所	
建築面積	7,571 m ²	確認日	-	
延床面積	9,319 m ²	確認者	-	

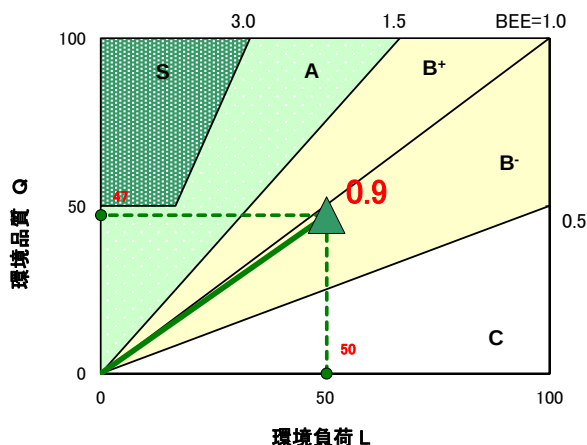
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.9

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

92%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

63

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

55.2

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

46.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

85.5

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

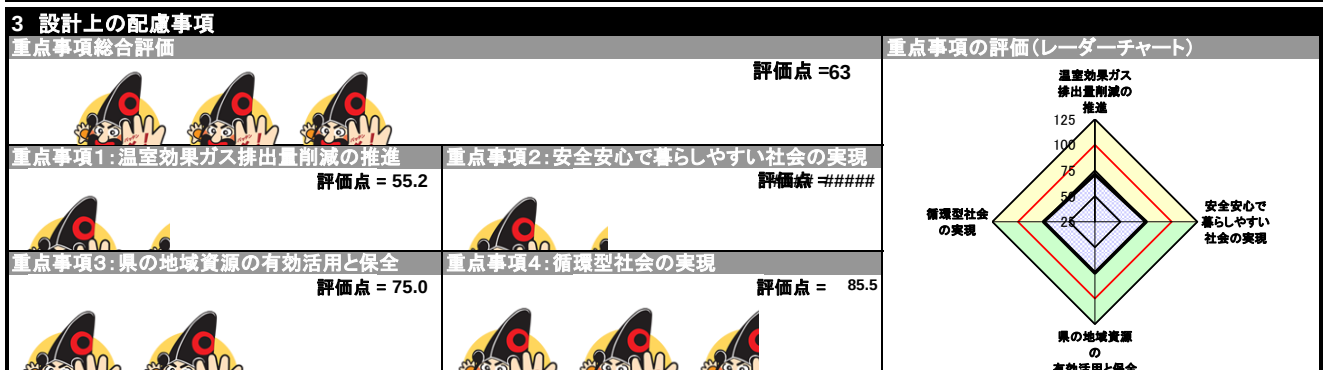
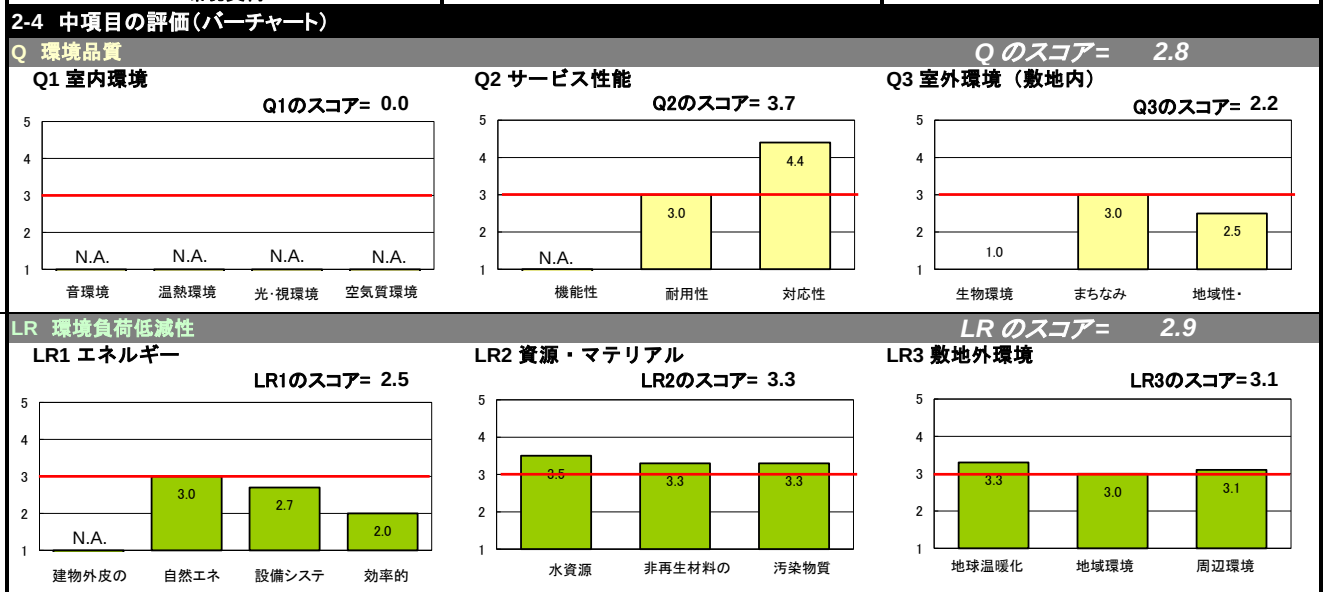
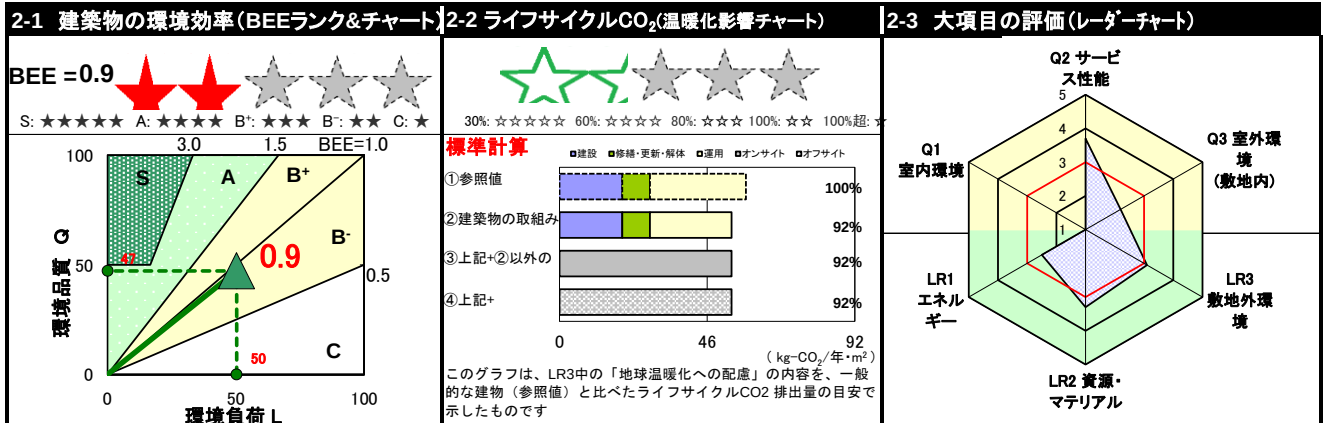
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社児湯食鳥 八代事業部 新	階数	地上2F
建設地	熊本県八代市新港町3丁目9番26	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	180 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2018年1月12日
敷地面積	19,801 m ²	作成者	株式会社 丸中設計事務所
建築面積	7,571 m ²	確認日	-
延床面積	9,319 m ²	確認者	-



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
株式会社児湯食鳥 八代事業部 新工場建設計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.8
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.7
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.0	0.50	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	床:ウレタン樹脂系塗床20年、壁・天井:ステンレス鋼板50年	2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給湯給水排水管の主要用途2種(給湯、排水)についてC以上	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	グリーン購入法対応の衛生器具、排水系統区分の細分化、中水の利用	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		5.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			4.4	0.50	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			1F階高7.8m	5.0	0.60	-	-
2 空間の形状・自由さ			壁長さ率=0.06	5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			1階:4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-
3.3 設備の更新性				3.6	0.40	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-
3 電気配線の更新性			天井内転シ配線、立上部保護管等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-
4 通信配線の更新性			PF管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-
6 バックアップスペースの確保			2階屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	4.0	0.20	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.13	-	-
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.85	2.7	0.63	-	-
4 効率的運用				2.0	0.25	-	-
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-
1 水資源保護				3.5	0.20	-	-
1.1 節水			節水型便器や水栓を採用	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.3	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			中水を利用している	4.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			床:スタイロフォーム	3.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			内装が乾式工法で分別性に配慮、OA707採用	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-
1 消火剤				-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮			消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.3	0.33	-	-
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制			敷地内に駐車・駐輪場・管理用車を配置、出入口の幅員6m等	5.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-
1 騒音				3.0	1.00	-	-
2 振動				-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない	4.0	0.70	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

特になし

Q1 室内環境

-

Q2 サービス性能

階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。

Q3 室外環境（敷地内）

緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。

LR1 エネルギー

LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。

LR3 敷地外環境

広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

その他

-

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

株式会社児湯食鳥 八代事業部 新工場建設計画

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		63
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				55.2	0.40	22.08
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				46.2	0.20	9.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数